社団法人日本精神保健福祉士協会　精神保健福祉部　精神保健福祉委員会作成

『PSW の実践・視点チェックリスト（2007 年度版）』

精神保健福祉委員会では、PSW の持つべき視点について検討してきました。2005 年度は「PSW の視点チェックリスト（vol1, vol2）を作成し、その結果は、機関誌「精神保健福祉」(JJPSW, NO.66, pp172－181, 2006 年 6 月 25 日発行）に報告いたしました。

2006 年度は、プレテスト vol.3 を実施し、今回完成版として、「PSW の実践・視点チェックリスト（2007 年度版)」を作成しました。

チェックシートは、回答後に集計結果をレーダーチャートにて確認できるようになっています。

このツールは自己の振り返りはもとより、各所属機関や学習会のグループなどで、業務や視点の話し合いにも使うことができます。

質問項目において用いられている用語は、以下のように定義されています。

「地　　域」　クライエントや自分が日常生活を営む中で、なんらかの関係をもつすべての人的・社会的な範囲、もしくは PSW の所属機関が存在し、社会資源や課題が把握されている範囲、またはその両方をさし、単なる行政区に留まるものではありません。

「社会資源」　人的、物的、金銭的資源、社会復帰施設などのすべてをさします。例えば民生委員、病院、ホームヘルパー、コンビニ、障害年金など。

「視　　点」　『物事を見たり考えたりする立場、観点』とし、必ずしも現在の業務に反映されているかどうかは問いません。

PSWの実践・視点チェックリスト（2007年版）

A　該当する〇をひとつ選び、●のように鉛筆で塗りつぶしてください。マークシート形式になっています。

1　性別　男　〇　女　〇

2　年齢　10の桁　⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

1の桁　⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

3　PSWとしての経験年数　10の桁　⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

1の桁　⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

B　次の質問について、PSWとしての自分にどれくらい当てはまるか1点から4点で点数化し、該当する番号を一つ選び、●のように鉛筆で塗りつぶしてください。

		あてはまる			あてはまらない
1	クライエントをひとりの人、社会の中で生活している人としてみている。	④	③	②	①
2	クライエントとの関わりの経過で、信頼関係が深まった経験がある。	④	③	②	①
3	所属機関の一員として業務を行っている時でも、クライエントの利益を考えている。	④	③	②	①
4	クライエントや、その家族の声を、行政施策につなげるようにしている。	④	③	②	①
5	地域の中での自分の役割を認識している。	④	③	②	①
6	他障害・高齢者福祉の動向にも目を向けている。	④	③	②	①
7	クライエント一人一人の生活を支援するよう、実践している。	④	③	②	①
8	満たされないニーズに対して社会資源を作り上げるように努力している。	④	③	②	①
9	精神保健医療福祉にとらわれない視野を持つようにしている。	④	③	②	①
10	地域の精神保健医療福祉課題を克服するために実践している。	④	③	②	①
11	業務について「なぜこれをやる必要があるのか」という意味を問い直している。	④	③	②	①
12	自分の働いている自治体の障害者計画を理解している。	④	③	②	①
13	所属機関が地域住民と交流する必要性を意識している。	④	③	②	①
14	クライエントのニーズに添った支援を行っている。	④	③	②	①
15	クライエントを支援するために、他機関と連絡を取り合うようにしている。	④	③	②	①
16	クライエントのニーズに応じて、支援活動の幅を広げている。	④	③	②	①
17	PSWとしての自分自身を、客観視するよう意識している。	④	③	②	①
18	精神保健医療福祉分野や関連領域の法律や施策の動向に注目している。	④	③	②	①
19	地域内の精神保健医療福祉分野の社会資源について把握している。	④	③	②	①
20	地域における精神保健医療福祉活動を過去・現在・未来という視点で捉えている。	④	③	②	①
21	所属機関の機能面での限界を理解している。	④	③	②	①
22	所属機関を離れて鳥瞰的（バードビュー）に地域全体を把握している。	④	③	②	①
23	地域住民に自分の所属機関の役割を知ってもらう必要性を意識している。	④	③	②	①
24	精神保健福祉法や障害者自立支援法について理解している。	④	③	②	①
25	社会問題にも目を向けている。	④	③	②	①
26	5年先、10年先の地域社会に必要な社会資源をイメージしている。	④	③	②	①
27	クライエントのニーズを中心としたサービスの提供や社会資源の活用を心掛けている。	④	③	②	①
28	クライエント支援に有効な、地域ネットワークに参加している。	④	③	②	①
29	自分の働いている地域の特色(文化・住民意識・行政組織など)を知っている。	④	③	②	①
30	精神保健医療福祉の改革ビジョンなどの国の施策についておおまかに理解している。	④	③	②	①

得点の算出方法

1. 各設問の点数を記入してください。④は4、③は3、②は2、①は1です。
2. 記入しましたら、縦に合計してください。合計から、5を引いた値が、得点です。
3. 得点を、レーダーチャートに記入してください。

総合		時系列		スタンス		視野		自己認識		施策の理解	
設問	点数	設問	点数	設問	点数	設問	点数	設問	点数	設問	点数
1		2		3		4		5		6	
7		8		9		10		11		12	
13		14		15		16		17		18	
19		20		21		22		23		24	
25		26		27		28		29		30	
合計		合計		合計		合計		合計		合計	
得点	−5	得点	−5	得点	−5	得点	−5	得点	−5	得点	−5

下記のグラフは、レーダーチャートにして示したもので、それぞれの領域にチェックリストの合計得点を入れていくことにより、視覚的にバランスを把握することができます。

JJPSW, NO. 66, pp172−pp181に掲載の図を参照してください。総合は図1、時系列は図2、スタンスは図3、視野は図4に対応しています。自己認識と、施策への理解は、対応図がありません。

視覚的に把握することで、今後の業務の参考にしてください。

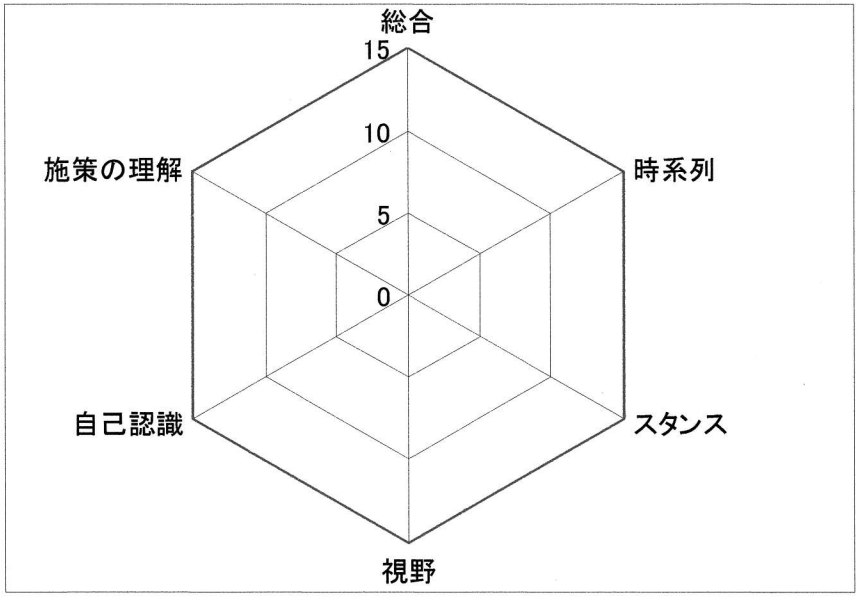
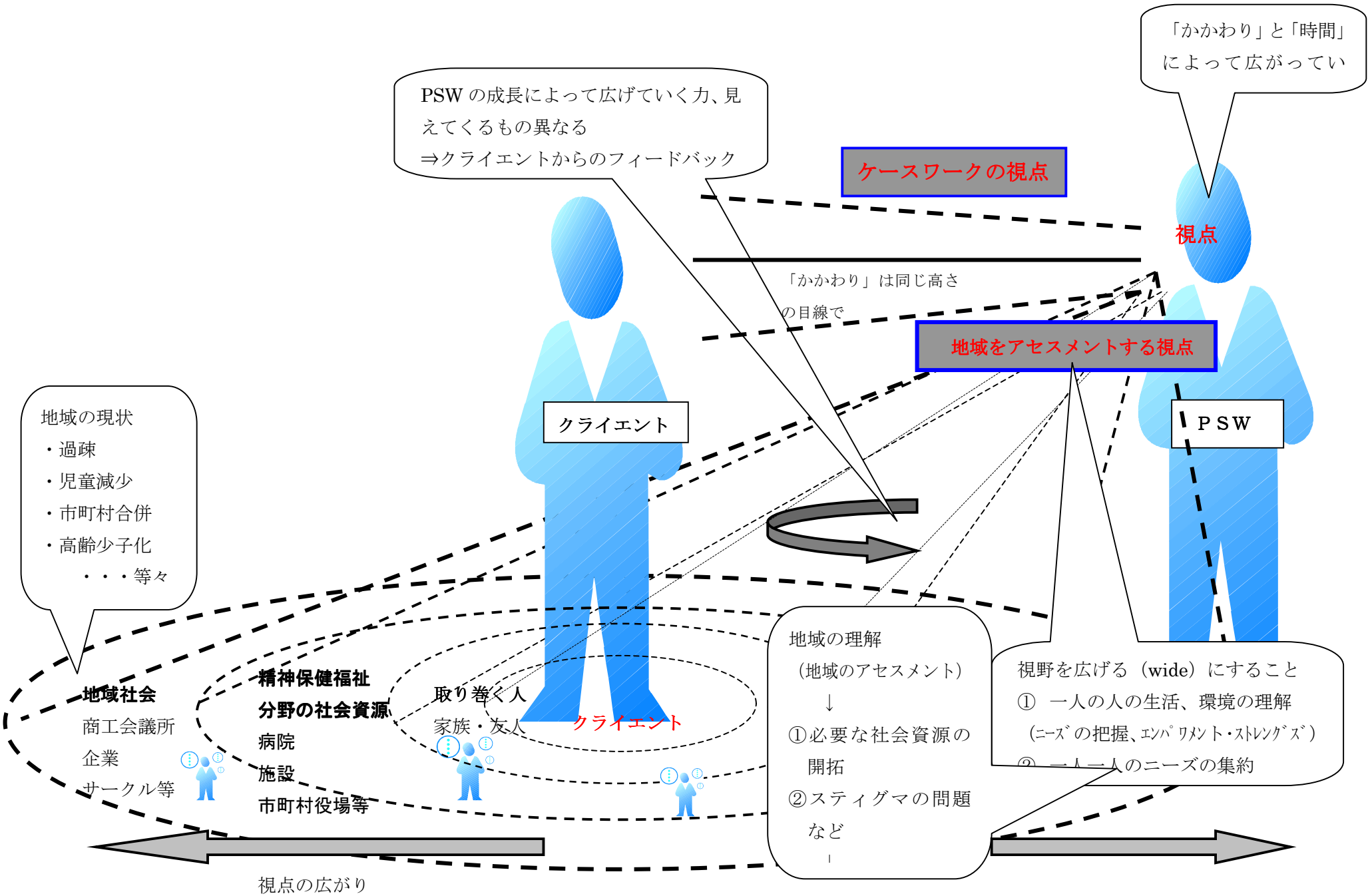


図１：クライエントとの関わりを通して広がる視点　　（H16　地域精神保健福祉委員会）



＜クライエントとの関わりを通して広がる視点＞

上記の図は、PSW がクライエントと同じ目線に立ちながら、クライエントの周りに広がる資源や地域を見据えていくという視点が重要であるということを表している。PSW は一人のクライエントに関わりながら、時間的経過や、信頼関係の深まり、表出するニーズの受け取り、クライエントの生活圏域、地域の社会資源の質や量などの要因から視点が広がっていく。

【　人　】

左の人は所属機関等を通して関わりを持つ**クライエント**、右は**ＰＳＷ**。

【　円　】

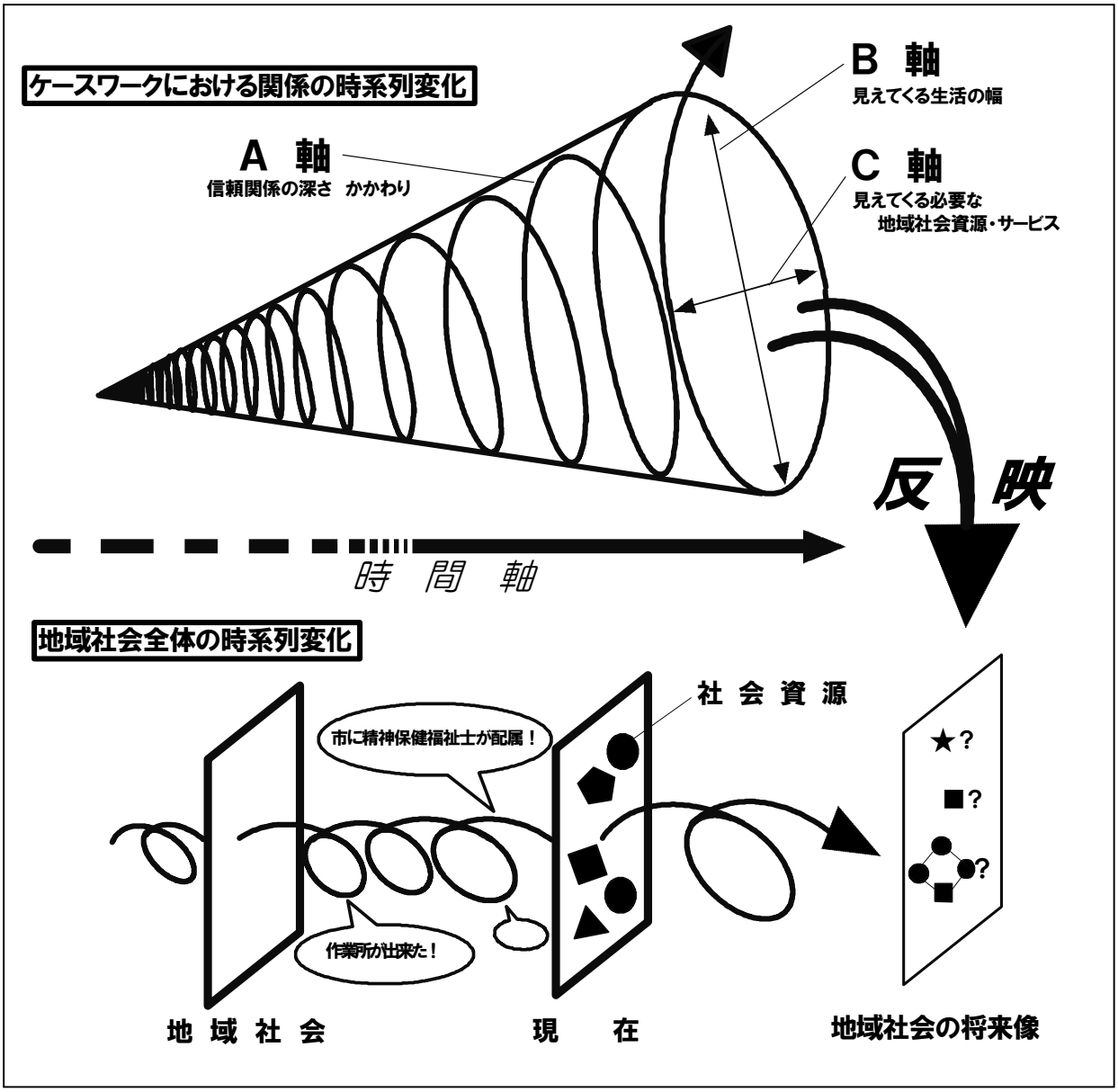
クライエントの立っている足元から広がる円は、クライエントを取り巻く人、精神保健分野における社会資源、地域社会にある社会資源をイメージしている。

【 点線　】

ＰＳＷから横に伸びる点線はクライエントと関わる**ケースワークの視点**を現わし、クライエントを生活者と捉え同じ目線に立ち、関わっている。

また、ＰＳＷから下方向に伸びる点線は**地域をアセスメントする視点**の広がりを示し、ＰＳＷがクライエントと関わることによってできる信頼関係の深さや関わりが大きくなるにつれ、クライエントを取り巻く状況が幅広く見えている。

図２：時系列変化を加味した PSW の視点　　（H16　地域精神保健福祉委員会）



ケースワークにおける関係の時系列変化

【A　軸】: クライエントとＰＳＷの継続的なかかわり。表出されるニーズに対して両者は課題を共有、解決に向けた協同の取り組みが行なわれる。この一連の経過の中で信頼関係は徐々に深まりをみせる。

【B　軸】: A軸が進行するに連れ、クライエントの生活における様々な側面が明らかとなる。ＰＳＷはクライエントの生活を幅広く見渡し、全体的な把握が可能となる。

【C　軸】: B軸の拡大により、個々に必要とされる社会資源やサービスが明らかとなる。それに伴いＰＳＷも地域を幅広く見渡す必要性が生じ、地域全体で求められる社会資源も明らかとなる。

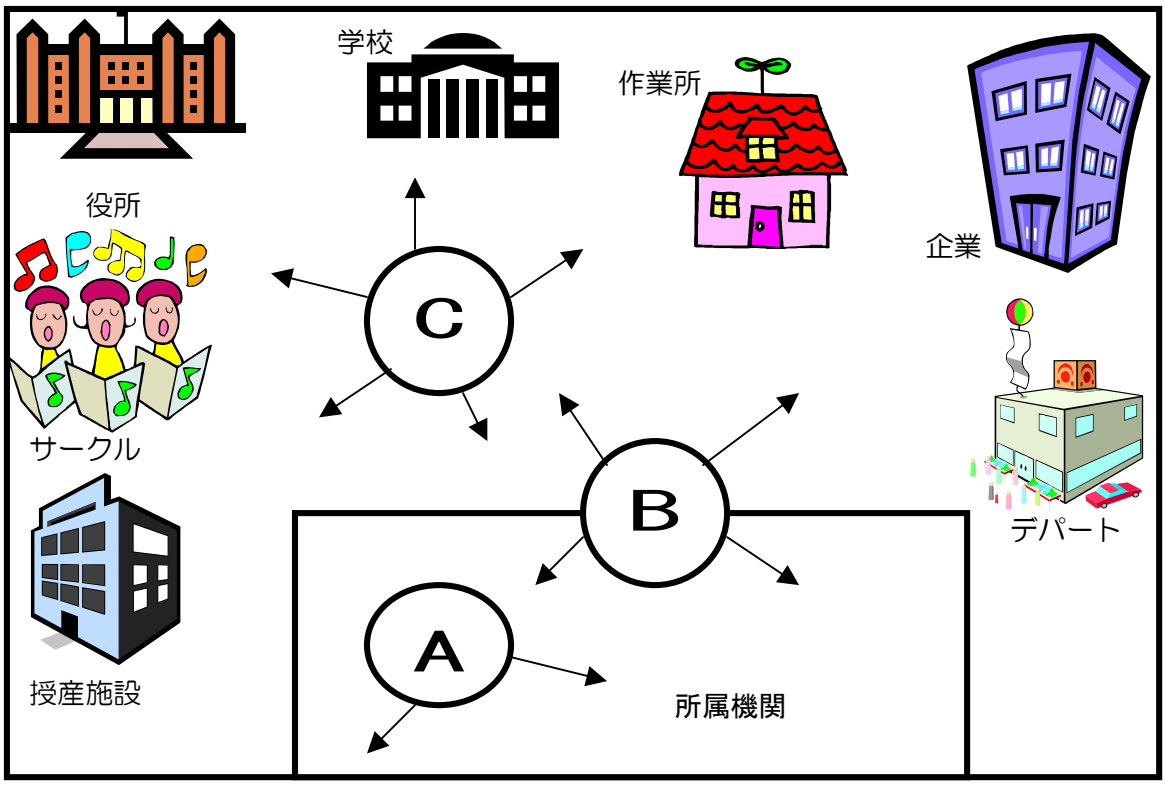
地域社会全体の時系列変化

それぞれの地域にはその地域に固有の歴史がある。精神保健福祉に関する社会資源も次第に増えたりして変化していく。PSW は、地域における資源の増減を過去から現在、現在から未来へと続く流れの中でとらえていくという視点を持たねばならない。

反映

各クライエントとの関係から、今後必要とされる社会資源・サービスを考え、それらを反映させた地域社会の将来像を描いていくことが、特に地域の PSW には必要である。

図３：PSW のスタンスからみた視点の比較　　（H16　地域精神保健福祉委員会）



Ⓐ のスタンスは所属機関内の資源やクライエントへ向けた視点のみの状態

所属機関（病院・各種施設・関連グループ）内における目の前の業務に集中している場合、この状態となる。当然、すべての PSW は多少の差はあっても、業務をこのスタンスでこなすことになる。しかし、このスタンスに終始していては、地域をとらえることはできない。視野の狭窄が起きやすく、利用者の社会参加が制限されたり、PSW の活動も限定的になりやすい。

Ⓑ のスタンスは所属機関内だけでなく、外部の資源にも視点が向けられている状態

所属機関から地域に一歩踏みだし、地域の資源をある程度見渡せる位置にスタンスをとっている。利用者のニーズをとおして、地域の資源とつながったり、地域の各種委員会、会議等でつながりをもつケースが多い。このスタンスでは、所属機関（及びその利用者）の利益と地域の利益のすり合わせを行う。そこには PSW としての倫理観と所属機関のニーズとの葛藤が起きやすい（たとえば、利用者にとっては他所の施設を利用したほうが望ましいが、所属機関のニーズから自施設を利用してもらうなど）。

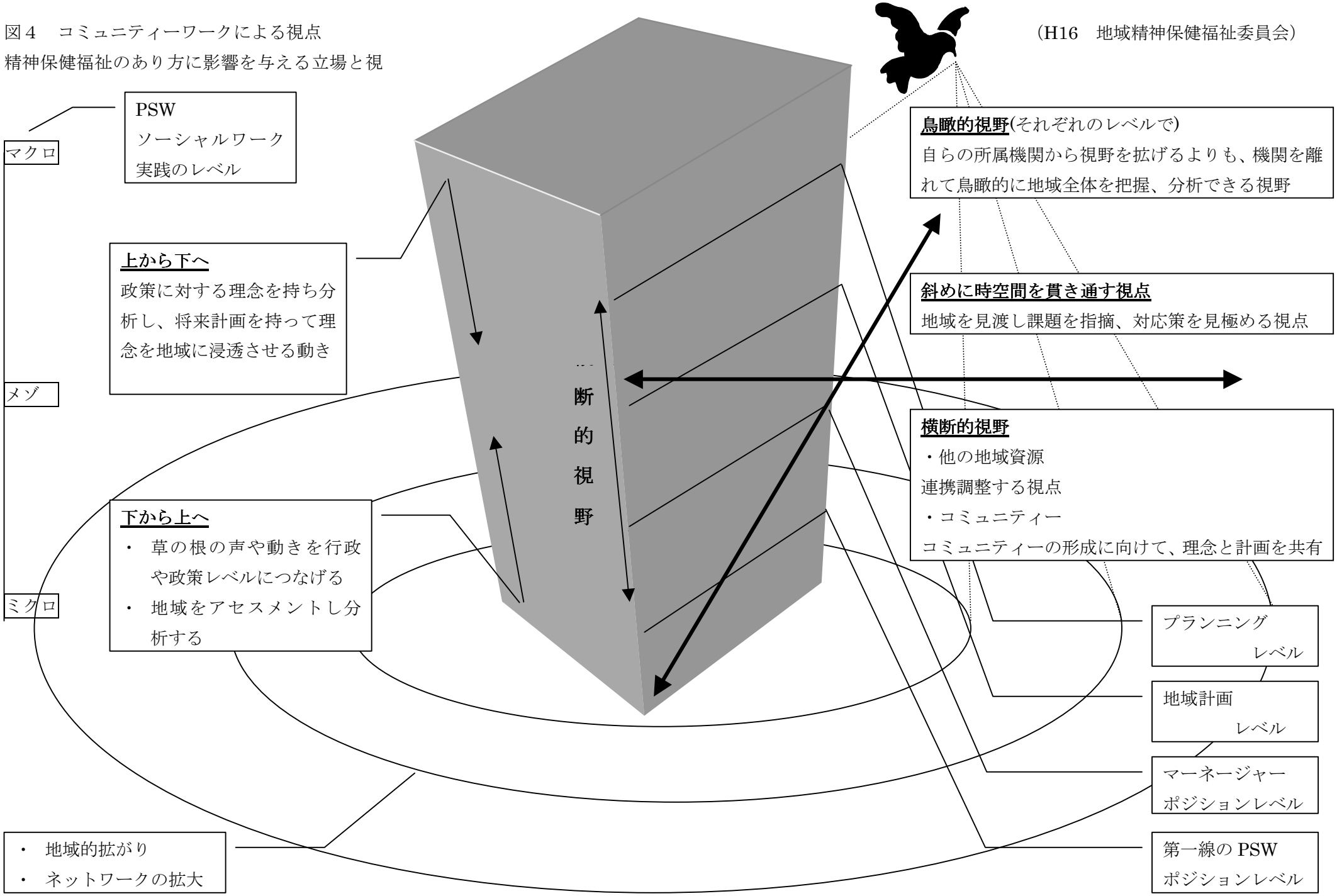
Ⓒ のスタンスは所属機関にとらわれず、外部の資源を広範囲にとらえ、地域を見渡している状態

所属機関の利益を超え、地域の社会資源の現状を踏まえた上で地域の将来像を描くことが出来る。所属機関さえも、客観視することが求められる。ケアマネジャーや公的機関の PSW に特に求められるスタンス。ほとんどの PSW はどこかの機関に雇用されている為、このスタンスに常に身をおくことは非常に難しい。

当委員会では、「地域の PSW としての視点」には、所属機関にかかわらず、Ⓒ のスタンスで地域をアセスメントできる柔軟さを持つことが含まれていると考えた。

図４　コミュニティーワークによる視点
精神保健福祉のあり方に影響を与える立場と視

（H16　地域精神保健福祉委員会）



社団法人日本精神保健福祉士協会　精神保健福祉部　精神保健福祉委員会

部　長　伊東　秀幸（田園調布学園大学）
委員長　白石　直己（社団法人やどかりの里）
委　員　池田　千穂（静岡県精神保健福祉センター）
　　大場　義貴（聖隷クリストファー大学社会福祉学部）
　　尾上　義和（横浜市磯子区生活支援センター）
　　西村　由紀（特定非営利活動法人メンタルケア協議会）
　　三木　良子（就労支援センターＭＥＷ）
　　山川　久子（入間市健康福祉センター）
　　山田　　創（精神障害者地域生活支援センター　サンスマイル）

（2008 年３月 18 日現在）

ＰＳＷの実践・視点チェックリスト（2007 年度版）
2008 年３月 31 日　発行
作成　社団法人日本精神保健福祉士協会　精神保健福祉部　精神保健福祉委員会
発行　社団法人日本精神保健福祉士協会
　　〒160-0015　東京都新宿区大京町 23-3　四谷オーキッドビル７Ｆ
　　TEL.03-5366-3152　FAX.03-5366-2993

※本書を無断で複写・転載することを禁じます。